

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
【仮称】ミズノスポーツプラザ京都伏見計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.2.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 パリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											

2.4 信頼性					2.2	0.20			
1	空調・換気設備				-	-			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.25			
3	電気設備				3.0	0.25			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.25			
5	通信・情報設備				2.0	0.25			
3 対応性・更新性					3.2	0.30			3.2
3.1 空間のゆとり					5.0	0.30			
1	階高のゆとり				-	-			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率:0.1未満	5.0	1.00			
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30			
3.3 設備の更新性					2.2	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		-	-			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		1.0	0.40			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.40			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									2.8
LR1 エネルギー					-	-			-
1 建物外皮の熱負荷抑制					-	-			-
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		-	-			-
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = -	-	-			-
4 効率的運用					-	-			-
集合住宅以外の評価					-	-			-
4.1	モニタリング				-	-			-
4.2	運用管理体制				-	-			-
集合住宅の評価					-	-			-
4.1	モニタリング				-	-			-
4.2	運用管理体制				-	-			-
LR2 資源・マテリアル					-	0.50			2.5
1 水資源保護					3.0	0.20			3.0
1.1 節水					-	-			-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	1.00			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					2.3	0.60			2.3
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		1.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		1.0	0.10			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.50			3.1
1 地球温暖化への配慮					-	-			-
2 地域環境への配慮					3.3	0.50			3.3
2.1	大気汚染防止			ガス燃焼機器を使用しない	5.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.5	0.25			
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3	交通負荷抑制				3.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.50			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる